



地方独立行政法人  
岐阜県立多治見病院

2020  
vol. 41  
令和2年1月1日発行

県病院のちょっと気になる? 知りたい! 医療の情報誌

# けんびょういん

Gifu prefectural  
TAJIMI HOSPITAL  
information

## Contents

新年のごあいさつ ————— 2

県立多治見病院秋まつりが  
開催されました ————— 3

各部・科からの便り ————— 4-6

令和2年1月~3月  
健康づくり講座予定表 ————— 6



新中央診療棟模型

# 新年のごあいわひ



副院長 兼 内科統括部長  
日比野 剛

あけましておめでとうございます。

2020年は東京オリンピックが開催され、おもてなしとともに、ますます便利な日本になると思います。ただ、あまりにも便利な日本になり、だんだんと心身ともにそれが当たり前のような感覚になつてしまう懸念を感じています。それというのも、昨年働き方改革の一環で久しぶりに長期休暇（といっても8日間ですが）をとり、ヨーロッパ観光に行きました。文化の違いは当然ありますが、4つの大きな違いを感じましたので、皆さんと一緒に共有したいと思います。

その1。水は有料。水道の水は、基本飲めず、レストランに入つても、お水はできません。ミネラルウォーターを購入します。日本へ来た外国人旅行者が和食の店に入り、どんどんお茶が継ぎ足され、びっくりした（料金いくら取られるのだろう）という話がありますよね。

その2。コンビニがない。県立多治見病院にも昨年オープンしましたが、日本中、至る所にある24時間営業のコンビニに慣れてしまつていませんか？

その3。自動販売機がない。日本では至る所にありますが、外国ではすぐに壊されてしまいます。物を買うときは、店員さんとコミュニケーションします。これは良いことだと思えます。

その4。公衆トイレがない。温水洗浄便座がない。お店に入つて、何か買つたり、飲んだりしてトイレをかります。今や、日本では当たり前（ビジネスホテルでも）であるシティホテルにも温水洗浄便座はありません。高速道路のパーキングエリアのトイレでもチップが必要なところがたくさんあります。

さて、何が言いたいのかというと、医療においても便利さと当たり前の感覚を見つめなおすという事です。

その1。軽症から重症まで24時間対応可能な病院にかかることへの問題です。

厚生労働省が進めている、かかりつけ医、慢性期中規模病院、急性期大病院の編成です。当院は急性期病院として、重症患者さんの治療、高度な技術を要する医療を提供します。そのための最新設備の購入、スタッフ教育に力を入れています。昼間の通常業務にベストを尽くします。夜間業務軽減にご理解ください。当院へ通院されている方も、必ず、かかりつけ医（地域の開業医さんです）をもつていただき、普段と違うことがあれば、まずは、かかりつけ医にご相談ください。

その2。自分の病気や体調を見直し、自己管理を行うことです。前章でも述べたとおり、日本では、すぐに医者、病院に受診できます。そして、お薬が好きな日本人は、どんどん薬が増えていきます。ただ、薬が増えると相互作用がおこり、薬の効き目が落ちたり、逆に副作用が強くなりすぎます。ご高齢の方の転倒の危険も増加します。

皆さん、お薬手帳は持っていますか？ご自分に処方された薬はどういう作用かご存じですか？この疑問に答えるのが、かかりつけ薬局さんです。大いに利用してください。

便利になりすぎて、運動、特に歩くことが減っています。世界最古の医者といわれている古代ギリシャのヒポクラテスの名言があります。歩くことは、人間にとって最良の薬である。と。当院では、歩くことに支障をきたす疾患を診断し、治療することに重点を置いています。定期的な、地域での市民講座を開催していますのでご来場ください。

最後に、患者さんとわれわれ医療スタッフは対等な立場ですので、少しいただき、当たり前前の感覚を見直して、お互いを尊重しあいながら、良い医療ができることを願っております。

# 県立多治見病院秋まつりが開催されました

11月2日（土）、県立多治見病院秋まつりが開催されました。当日は晴天に恵まれ、青空がひろがりました。秋まつりは地域の皆さんと交流を深めるというテーマのもと、今年で9回目を迎えました。地域の皆さんをはじめ、秋まつりに関わる全ての方に御礼申し上げます。さて、秋まつりの内容はだまかに分けて3つになります。

- 毎年その時の旬な内容をお送りする市民公開講座
- 情報発信の展示型から体験型まである、様々なブース！
- お祭りと言ったらこれ！様々な種類を取りそろえた屋台

この3つの内容に分かれて、中央診療棟を中心に秋まつりが展開されます。それでは一つ一つ紹介していきます。

## まずは市民公開講座

市民公開講座は、毎年地域の皆さんを対象として、医療従事者を講師としてお招きして講演を行っています。今回は公益財団法人応用生化学研究所の杉山理先生に講演いただきました。

認知症に関する講演と言うことで関心も高く、多くの方に聴いていただきました。



## 続いて、病院の各部署から出展されるブース

このブースは年々体験型が増えています。病院版キッズニアは言い過ぎですが、内視鏡体験を初め、薬剤師の体験ブースでは実際の機器に触れて、調剤体験することもできました。また、パネル展示を行うなど工夫を凝らしたブースもあり、各部署の仕事を知ってもらうことができました。

## 最後は、お祭りと言ったら屋台！

屋台は基本的に職員が切り盛りしています。販売品の企画から販売までを行いました。今年はチャーハン、うどん、フランクフルト、ポップコーン等を準備し、全て完売しました。キッチンカーの出店もあり、スイーツの甘い香りがあたりに漂っていました。



天気にも恵まれ、大勢の方に来場していただきました。今後も皆さんに病院を知っていただくため、イベントの開催にとどまらず、情報発信をしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

## 緩和ケア認定看護師便り

皆さんは「緩和ケア」という言葉を聞かれた時、どんなイメージを抱かれますか？

「緩和ケア」とは「がん」と診断された時から行う、身体的・精神的な苦痛をやわらげるためのケア」です。また、「患者さんとご家族にとつてできる限りのQOL（クオリティオブライフ・生活の質、人生の質）を実現させるためのケア」です。

当院は平成17年に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、その後、新病棟の完成を待ち、平成22年6月に緩和ケア病棟をオープンさせました。多職種（医師・薬剤師・看護師・理学療法士・栄養士・医療相談員）から構成される「緩和ケアチーム」を立ち上げ、患者さんやご家族の方ができる限り心地よい生活が送れるよう支援しています。私はこの「緩和ケアチーム」の一員であり、現在は緩和ケア病棟に勤務しています。そして、スタッフと共に次のようなケアを提供しています。

- ① 痛みなどのつらい症状を取り除くケア（身体的な痛み、痛み以外の吐き気、呼吸困難感、倦怠感、食欲不振など様々な症状の緩和）
- ② 日常生活が楽に過ごせるようなケア（食事、排泄、睡眠、清潔）と心

### 地よい環境の提供等

- ③ 心のケア
- ④ ご家族へのケア
- ⑤ 自宅でも緩和ケアが受けられる支援

がんに伴う心身等の苦痛に対し、適切なケアが受けられれば、快適に毎日を過ごすことができます。また、地域の病院や施設のスタッフの方々と勉強会や検討会も行っています。緩和ケアに関わるスタッフは、患者さんやご家族の悩み、不安について共に考え、ご自身が納得して選択された過ごし方や治療を支えていきたいと考えています。お一人で悩まずに、まずは担当医師、看護師、医療スタッフにお気軽ににご相談ください。

（文責 緩和ケア病棟 山中洋美）



## 神経内科紹介

当院神経内科は急性期脳梗塞、脳炎・髄膜炎等の神経救急疾患から認知症、頭痛、めまい、てんかん、末梢神経障害および神経難病（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症）等、種々の脳神経系内科疾患を対象に診療しております。

当科は4名の日本神経学会専門医で構成されています。東濃地域および岐阜県には神経内科専門医が少なく広域からさまざまな病状の患者さんが当科に紹介されてきます。当院は救命救急センターを擁し、365日24時間脳卒中中の急性期患者さんを受け入れております。

当科入院で最も多いのは急性期脳梗塞患者さんで、年間250人以上にのぼります。適応症例には超急性期の血栓溶解療法を施行し、脳血管内治療も連携施設と協同し進めています。入院中の治療・ケア、リハビリテーションに関してはカンファランスを行い多職種が協同して行っています。急性期以降の治療は、回復期リハビリテーション等と、東濃脳卒中地域連携バスという連携システムを利用し、切れ目のない治療を進めています。

急増している認知症への対応も、

当科は力を注いでおります。当院はダットスキヤンやMIBG心筋シンチ検査等の認知症病型診断に有用なシンチグラフィ検査が使用可能です。当科では各種の画像検査、神経学的診察等を総合して、より正確な診断に努めています。そして適切な薬物療法、ケアを検討するとともに、必要に応じて医療相談課の相談員が、介護保険をはじめとした社会資源利用等の説明を行い、ご本人やご家族をサポートします。

また当科ではかかりつけ医との密接な医療連携を結び協力・共同して診療にあたるよう努めております。

当科は今後も神経疾患の患者さんのために最善を尽くすべくスタッフ一同、日々精進して行きたいと思っておりますので、皆様の暖かいご指導ご鞭撻を、お願い申し上げます。

（文責 神経内科部長 青木真一郎）



## 椎間板ヘルニアに対する新しい治療法

### 腰椎椎間板ヘルニアとは どんな病気？

背骨は椎骨という骨が積み重なっており、椎骨の間でクッションの役割を果たしているのが椎間板です。椎間板の中心にはゼリー状の髄核があり、周囲をコラーゲン線維（線維輪）が囲んでいます。何らかのきっかけで線維輪の亀裂を通じて髄核が飛び出した部分をヘルニアと呼び、ヘルニアが神経を圧迫して痛みやしびれなどの症状を引き起こすのが、椎間板ヘルニアです。

### 治療法

腰椎椎間板ヘルニアは自然に縮小し症状が治まるケースも多いため、まず保存療法を行います。保存療法で十分な効果が得られない場合には注射や手術などが検討されます。今回ご紹介するのは「椎間板内酵素注入療法」という新しい治療法で、椎間板内に針を刺し薬剤（ヘルニア®）を直接注射して、ヘルニアによる神経の圧迫を弱める方法です。

### 椎間板内酵素注入療法の仕組み

ヘルニア®は髄核の保水成分を分解し、椎間板内の圧力が減少することにより神経への圧迫が改善し、

痛みやしびれが軽減すると考えられています。

### 治療手順

当院では原則、一泊二日の入院で行なっています。治療当日の午前中に入院し、午後レントゲン透視を見ながら注射します。当日はなるべく安静を取って頂き、問題がなければ翌日に退院となります。

### 本治療には厳格な適応基準があります

患者さんのご希望に応じて施行できるものではなく、レントゲンやMRI画像所見、年齢、既往症、アレルギーの有無、妊娠の有無、骨の状態などにより、担当医師が本治療法の適応と判断した場合にのみ施行可能です。また生涯に1回、1部位にしか行えません。詳しくは外来担当医にご相談ください。

（文責 整形外科部長 高津哲郎）



## 皮膚科紹介

皮膚はヒトの体で最も大きな臓器で内蔵の鏡と言われます。当科では皮膚に生じた病気を全般を取り扱っています。アレルギーの関連するものを含めた炎症疾患、薬疹や膠原病の皮膚症状から、自己免疫性疾患、腫瘍、感染症、遺伝性疾患まで幅広く診療を行っています。

現在、当院皮膚科では医師3名で診療にあたっております。外来では看護師2人とともに診察にあたっております。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、尋常性乾癬、脱毛症、尋常性白斑の他、蜂窩織炎などの細菌感染症、帯状疱疹、水痘などのウイルス感染症、足白癬、爪白癬などの真菌感染症や、天疱瘡、類天疱瘡などの自己免疫疾患、各種皮膚腫瘍など様々な皮膚疾患に対して皮膚生検、パッチテスト、血液検査等を行い診断していきます。また化学療法を受ける患者さんに生じた様々な皮膚障害に対し、主治医の先生とともにその対処も行っています。

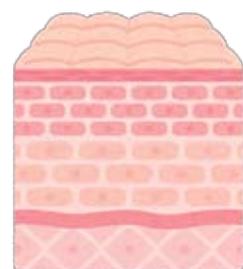
当科は2010年に乾癬治療薬として認可された生物学的製剤の使用施設として承認され、乾癬に対する8種類の生物学的製剤および2018年4月に認可されたアトピー性皮膚炎治療薬である生物学

的製剤（デュピクセント）による治療を行っております。また外来看護師の指導のもと、多くの患者さんに自己注射を導入しています。

当科では入院治療も行っています。良性、悪性腫瘍や植皮などの手術のほか、帯状疱疹、水痘、蜂窩織炎などの各種感染症、重症薬疹を中心に、天疱瘡などの難病、円形脱毛症のセミバルスなども行っています。悪性黒色腫など疾患によってより高度な治療が必要な場合には、名古屋大学皮膚科などに紹介させていただきます。

東濃地方には皮膚科医が複数勤務する病院が少ないこともあり、基幹病院の皮膚科としての役割を果たすべく日々頑張っています。ご迷惑をおかけしますが、初期治療や、落ち着いた後の治療はかかりつけ医の先生にお願いしております。至らない点がございましたらご意見いただけますと幸いです。

（文責 皮膚科医長 柴田章貴）



## 地域医療連携センターについて

当院では、東濃地域全体での連携体制を円滑に実施するため、『地域医療連携センター』を設置し、院内外の窓口業務を行っています。

### 地域医療連携センターの主な業務

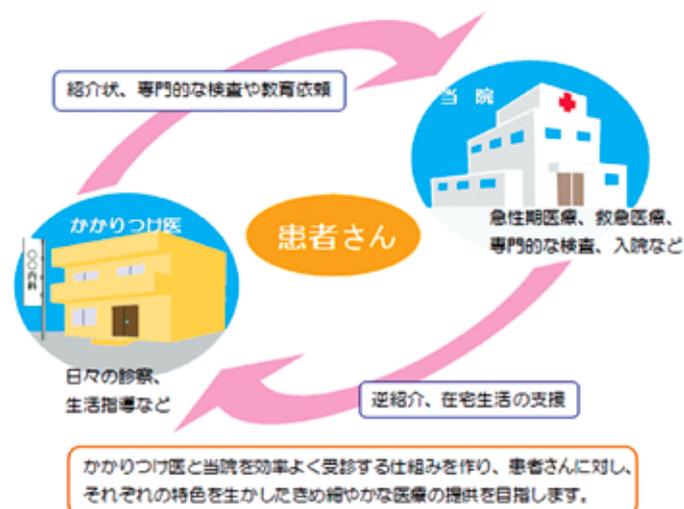
- ・紹介患者さんに関するかかりつけ医との連絡調整
- ・紹介患者さんの予約及び受付対応
- ・医療連携に関する研修会、講習会の実施

皆さんが、かかりつけ医からの紹介で当院へ受診する際に、よりスムーズに受診が出来るように業務を行っています。

また、ある程度治療が終了し、症状が安定した患者さんは、病院からかかりつけ医へ紹介し、その後の治療・フォローが委ねられます(逆紹介)。

このように、かかりつけ医と病院が連携・協力してそれぞれの役割を果たし、患者さんにとって最善となる治療を切

## 地域医療連携のイメージ



れ目なく実施し、地域全体でより効率的・効果的な診療を行うことを『地域医療連携』といいます。  
 かかりつけ医と当院、皆さんが「ふたりの主治医」を持つことは、適切な医療をうけるためにとっても大切なことです。当院の役割と地域医療連携についてご理解いただけますようお願いいたします。

(文責) 医療連携診療支援課 医療連携担当

林 範行

## 令和2年1月～3月 健康づくり講座予定表

| 開催希望日(時期)               | 演 題  | 施設名             | 講演者(所属・役職)                               |
|-------------------------|--|-----------------|--|
| 1月10日(金)<br>14:00~15:00 | 高齢者向け 腰痛・ひざ?/足の痛み予防                              | 脇の島公民館          | 木村信博 リハビリテーション科 技師長                      |
| 1月17日(金)<br>10:00~11:00 | 相談してみよう!「つらい痛み」は薬で和らげられる?                        | ヤマカまなびパーク       | 長谷部千夏 薬剤部                                |
| 1月30日(木)<br>14:00~15:00 | 第2の心臓と言われている足を守りましょう                             | 根本交流センター        | 日比野剛 副院長兼内科統括部長・富田和裕 理学療法士               |
| 2月6日(木)<br>15:00~16:00  | 第2の心臓と言われている足を守りましょう                             | 土岐市保健センター4階大研修室 | 日比野剛 副院長兼内科統括部長・理学療法士                    |
| 2月14日(金)<br>19:00~20:00 | 上手な病院のかかり方<br>~事務、看護師、技師の立場から~                   | 小泉公民館           | 林 範行・森藤けい・山中英治<br>医療連携スタッフ(事務、看護師、放射線技師) |
| 2月17日(月)<br>10:00~11:00 | 健康食品と薬の使い分け                                      | 精華公民館           | 堀内 正 薬剤部長                                |
| 2月18日(火)<br>10:15~11:15 | ラジエーションハウス<br>気になる身体の中はどうなっているの?<br>画像診断機器で診てみよう | 南ヶ丘町内会集会所       | 金子弘明 中央放射線部                              |
| 2月28日(金)<br>13:30~14:30 | 高齢期の食事のとり方<br>~低栄養・認知症対策~                        | 笠原中央公民館         | 保母貴美子 栄養管理部技師長                           |
| 3月3日(火)<br>14:00~15:00  | 「危険な不整脈から命を守る<br>植込みデバイスの話」                      | ヤマカまなびパーク(予定)   | 竹本芳雄 循環器内科                               |
| 3月4日(水)<br>14:00~15:00  | ラジエーションハウス<br>気になる身体の中はどうなっているの?<br>画像診断機器で診てみよう | 旭ヶ丘公民館          | 金子弘明 中央放射線部                              |
| 3月9日(月)<br>10:00~11:00  | 知って得する!認知症予防のための活動<br>パート2                       | 養正公民館           | 寺下美智子 リハビリテーション科 技術課長補佐                  |
| 3月17日(火)<br>13:30~14:30 | 認知症予防の活動 Ver.2                                   | 八百津久田見出張所       | 柴 貴志 リハビリテーション科 副技師長                     |
| 3月26日(木)<br>15:00~16:00 | 第2の心臓と言われている足を守りましょう                             | 八百津町保健センター大研修室  | 日比野剛 副院長兼内科統括部長・理学療法士                    |

※上記予定表は令和元年10月1日現在のものです。今後の講演につきましては、順次追加いたします。



岐阜県立多治見病院

令和2年1月1日発行 第41号

発行責任者/近藤泰三 編集/岐阜県立多治見病院広報委員会



岐阜県立多治見病院 公式ホームページ  
<http://www.tajimi-hospital.jp>



岐阜県立多治見病院 公式フェイスブック  
<https://www.facebook.com/tajimihospital>

